

みんなの思い出をスクリーンに

閉会式典部

総合ビジネス科3年 熊谷 未悠

今回の愛知大会で第23回目を迎える全国産業教育フェア。私は生徒実行委員の副部長として、1年半前からこの大会の運営に携わってきました。私が担当していたのは、大会を締めくくる閉会式典部でした。

全国規模の大会に実行委員として参加することに対して、東海商業高校の代表、また愛知県の専門高校生の代表としてのプレッシャーもありました。そんな中私はメモリアルアトラクションのシナリオ作成という役割を任せられました。これらは大会の最後を締めくくる内容なので、「生徒実行委員会みんなの頑張りを、多くの人に知ってもらいたい!」という強い思いで取り組んできました。引率の先生に助けをいただきながらシナリオ原稿を何度も書き直し、同時に劇中ダンスの音源の編集や、劇の背景で利用するイメージ動画の作成も行いました。私自身がメモリアルアトラクションに出演する場面は少なかったのですが、みんなの縁の下の力持ちとなれるようにサポートに努めました。

今回の作業で一番力を入れて取り組んだのは、アトラクションの最後に上映する、実行委員会の活動内容を振り返る動画の編集です。「実行委員の皆自身が、自分たちの思い出を振り返ってもらえるような動画を作りたい!」との思いを持って作業に取り組みました。たった3分というタイムラインの中には収まりきらないようなこの一年半を、百数十枚の写真にBGMをのせて、何度も何度も修正しては書き出し、心を込めて作り上げてきました。正直、挫けそうになったことも何度もありました。完成したと自分が思っても、ミスが合ったらやり直し。それでも、閉会式典部の仲間や先生方に支えられ、なんとか動画を完成させることができました。

本番当日、いい緊張感の中、メモリアルアトラクションは始まりました。私は、舞台袖からみんなの演技を見ていましたが、これまでで一番声が出ていました。みんなの頑張りがあって、無事にメモリアルアトラクションは進行し、劇も終わりに差しかかったとき、私の作った動画がスクリーンに映し出されました。その時、自分が作った動画を見ながら、私はなぜか涙が止まりませんでした。やりきったんだという達成感からか、それともこれで生徒実行委員会が終わってしまう寂しさからなのかはよく分かりません。でも動画を通じて、「今までちゃんとやってきたんだ」という気持ちがこみ上げてきたのだと思います。アトラクション最後の実行委員の全員合唱では、みんなで手をつないでテーマソングを歌いました。みんなと一つになれた気がしました。

今回、たまたま愛知県で行われた全国産業教育フェア。この1年半の実行委員としての経験は、私にとってとても貴重なものになったと思っています。何より支えてくださった先生方や、教育委員会の方々、大会に足を運んでくださったたくさんの来場者の方、全国から集まった高校生皆さん、見に来てくれた宮城県の実行委員の人たち、そして何より生徒実行委員会みんなにすごく感謝をしています。この大会に携わることがなければ、きっと出会うことのなかった生徒実行委員会のみんなに出会えたことが、私の中ですごく大きな財産となっています。私の知らない、いろいろな専門知識を学んでいる同じ年の高校生からは、すごくたくさんの刺激をもらいました。みんなのことは、「友達」というよりも「仲間」と呼んだ方が正しいような気がします。素敵な仲間に出会えました。みんな、ありがとう!

この全国産業教育フェアを通して、本当にいろんなことを学び、得ることができました。この大会は私をたくさんの人々と出会わせ、私自身を成長させてくれました。1年半前の自分より、ちょっぴり成長できた気がします。どうか来年、宮城で行われる全国産業教育フェアも大成功で終わるように祈っています! この素晴らしい大会を、たくさんの全国の高校生たちで繋げていってほしいです。